

歴史散策
坂越地区
MAP

レンタサイクルに乗って、気軽に坂越へ♪		
基本料金	300円	利用開始日に返却する場合
加算料金	1日 300円	利用開始日の翌日以降に返却する場合に加算
保証料	700円	利用開始時に前納(返却時に還付)



大避神社の桜



坂越の見所



秋

坂越の船祭

散策モデルコース

■ 北回りコース

JR坂越駅 $\xrightarrow[\text{1.6km}]{\text{約25分}}$ 旧坂越橋東 $\xrightarrow[\text{0.6km}]{\text{約8分}}$ ⑨奥藤酒造郷土館
 $\xrightarrow[\text{0.6km}]{\text{約12分}}$ ⑤大避神社 $\xrightarrow[\text{0.4km}]{\text{約8分}}$ ⑥宝珠山妙見寺観音堂

■ 南回りコース

JR坂越駅 $\xrightarrow[\text{0.6km}]{\text{約7分}}$ 坂越橋東詰 $\xrightarrow[\text{1.0km}]{\text{約14分}}$ ⑧旧坂越浦会所
 $\xrightarrow[\text{1.8km}]{\text{約25分}}$ 海の駅しおさい市場

凡例

 自転車周遊ルート

 トイレ

 駐車場

 バス停
(神姫バス)

 レンタサイクル



坂越の名産

牡蠣

歴史散策 坂越地区

地区内の史跡や寺院、神社、文化財などを巡りながら坂越を楽しんでください。

魅力発見

5 おおさけ 大避神社



祭神は秦河勝・天照皇大神・春日大神である。神社の創立時期は明らかなが、播磨国総社縁起によると養和元(1182)年に祭神中太神24座に列せられ、当時すでに有力な神社であったという。現在の本殿は明和6(1769)年、拝殿と神門は延享3(1746)年に再建されたものである。拝殿両脇の絵馬堂には40余りの絵馬が掲げられており、中でも享保7(1722)年の舟絵馬は最も古い舟絵馬として貴重なものである。秋に行われる祭礼、坂越の船祭は国の重要無形民俗文化財となっている。

11 光明山妙道寺



茶臼山の南麓にあり、浄土真宗本願寺派に属する。享禄5(1532)年に善祐門徒学西の開基という。本尊の阿弥陀仏の木造は寛永9(1632)年2月18日に高砂沖で漁網にかかったものを奥藤又次郎が受けて本堂に安置したものと伝えられる。本堂は享保19(1734)年に、山門は宝暦3(1753)年にそれぞれ再建され、鼓楼は寛保2(1742)年に、鐘楼は寛延2(1749)年に建立されたものである。

17 尼子塚

道路傍に3基の五輪塔が安置されていたが、道路拡張のため平成15(2003)年現在地に移設された。尼子将監義久の墓、あるいは尼子氏滅亡後この地を支配した赤松一族の富田采女の家ともいわれる。



6 宝珠山妙見寺観音堂



腹にかけて16の坊舎と9の庵があったが、その後の文明17(1485)年の僧兵一揆により焼失したという。観音堂は萬治2(1659)年に宝珠山中腹に建立され、「円通閣」とも呼ばれたが暴風のため大破し、享保7(1772)年に現在位置に再建された。

12 木戸門跡広場



現在の高谷駐在所前にあたり、その礎石2個が今も駐在所の敷地に残っている。いつ頃設置され、いつ撤去されたかは不明だが、坂越浦の治安維持のため設置され、番人を配して罪人が出た時は門を閉じて検問を強化し、夜間(亥の刻)には閉じて通行を遮断したという。

18 ほうじゅ 宝寿山西山寺



られ、最盛時には東塔、西塔があったという。戦国期には尼子氏の祈願寺となっていたが滅亡後は消失し、元禄期には勝田新左衛門と僧菟性が精舎を建立、その後元文3(1738)年に住僧有半が再興し現在に至っている。境内には天明4(1784)年 銘の手洗石、参道口には同年銘の地藏石像と石灯籠がある。播州赤穂城内33カ所所霊場と播州赤穂郡33観音霊場の第14番札所でもある。近くに祭神火魂神の荒神社がある。

1 いきしま 生島樹林



周囲1.63kmの小島であるが、古来大避神社の神地として樹木の伐採を禁じられたため、原始の状態をよく保っている。樹種は大部分が常緑樹で、そのなかに落葉樹や草木が混生し、特に蔓生植物が繁茂している点が特徴である。当地方の原始景観やわが国の植物分布における温帯林の限界をみるうえからも貴重な樹林である。大正13(1924)年12月9日、国指定天然記念物となる。

7 児島高德の墓



児島高德は『太平記』によれば新田義貞とともに足利尊氏と戦い、妙見寺で傷を癒し各地を転戦し、晩年坂越で没したという。船岡園中に児島高德の墓と伝えられる五輪塔があるが、五輪塔自体はその特徴から考えて近世初期のものである。

13 黒崎墓所



江戸時代に上方と瀬戸内・日本海を結ぶ西廻り航路の成立とともに、坂越は諸国廻船の入港盛んな地となった。それに伴って航海中坂越浦海域で海難や病気などによって客死するものもあって、湾の西南端黒崎の地に彼らの墓所「他所三昧」(船三昧)が造られた。妙道寺に残る過去帳や関係浦状・取置証文などによると宝永3(1706)年～文久2(1862)年の間に判明する埋葬者は134人で、その出身地は南は薩摩の種子島、西は対馬、東は伊勢・尾張・伊豆、日本海側では丹後・越後・出羽など27カ国に及ぶ。平成3(1991)年3月30日に県指定史跡となる。

19 ほうしょう 宝性山長楽寺



明王、薬師如来の本尊を祀る。最盛期には12の坊舎、上下の大門などがあった。嘉吉の乱の兵火に遭い焦土と化し、1小坊舎を残すのみとなっていたが、正保元(1644)年、住僧の円盛が中興して現在に至る。境内には鹿島神社・稲荷社がある。また、神護寺にあった木造の不動明王立像、毘沙門天立像は昭和56(1981)年、市の文化財に指定されている。播州赤穂城内33カ所所霊場と播州赤穂郡33観音霊場の第13番札所でもあって、播磨西国観音霊場第9番札所、播州薬師霊場第19番札所でもある。

2 生島古墳



生島の西端山頂にあり、墳形は崩壊・改変が著しいが径20m前後の円墳と考えられる。大避神社の祭神である秦河勝の墳墓と言いつたえられているが、古墳時代前半期の古墳であろう。また、生島の南斜面に崩壊した横穴式石室を持つ小墳2基が存在する。

8 旧坂越浦会所



天保2～3(1831～1832)年にかけて建築され、明治まで坂越浦の会所として使用されたほか、赤穂藩主も来浦の際は休憩所として使用した。のち昭和5(1930)年に大改造され、坂越公会堂として使用された。平成5～6(1993～1994)年にかけて解体復元整備を行い建築当時の姿に整備され、一般公開されている。この建物は藩の茶屋の機能を合わせ持った大規模で希少な会所建築であるばかりでなく、その建築年代が明らかなう豊富に残された会所日記が当時の村落運営なども知ることができる点において重要な意義を持つものである。平成4(1992)年4月30日、市指定有形文化財となる。

14 うんこくさんじょうらくじ ごゆうぜん 雲谷山常楽寺・吾有禅師の墓



赤穂郡大領高屋越前二郎為経の常楽庵にはじまり、その後子孫の高屋先生源景義が正中元(1324)年に京都の東福寺の深草首座に請うて禅院とし常楽寺と改号しよく栄えたという。しかし天文年間(1532～1555)年に信徒が改宗したり、慶長(1596～1615)年の初めに坂越荘三カ村を領した浮田安心がたとえ寺社領であつてもみだりに山林田畑を押領したため衆僧離散して廃寺となった。その後、元禄15(1702)年、明和7(1770)年の二度にわたり小堂が再建される。境内には吾有禅師の墓がある。吾有禅師は本名は松本和右衛門で、もと高松藩士であつたが剃髪して吾有玄道といつた。坂越では妙道寺に住み多数門人に和歌や絵画、禅道を教えた。文化11(1814)年に讃岐で没するが、門人らが常楽寺境内に墓石を立て遺品の鉄鉢と十徳を葬る。

20 たかとりやま 高取山古墳群



高取山の山裾から中腹にかけて、21基の横穴式石室墳と6基の積石塚が分布していたが、周辺の土砂取りで八重山古墳とともに一部消失した。山裾にある横穴式石室墳の一部は内部構造の残りもよく、墳丘も原型を留めている。また、鉄道を挟んだ向かいの高伏山にも古墳3基で構成される高伏山古墳群がある。

3 御旅所、船倉



御旅所は享保4(1719)年12月に再建されたもので、内陣1間半四方、外陣3間四方、立3間の規模を持つ瓦葺の仏教様式の建物である。祭礼に際しては内陣に神輿が安置されて神事が執り行われる。船倉は元文元(1736)年の建築で、祭礼用和船を保管している。船倉と祭礼用和船は昭和60(1985)年3月26日、県指定有形民俗文化財となる。

9 奥藤家・奥藤家酒倉・奥藤酒造郷土館



西国大名の本陣にあてられた家屋は築後300年といわれ、複雑な平面形をもつ大規模な入母屋造りの建物である。酒倉は寛文年間(1661～1673年)の建築で、高さ2mにおよぶ石垣による半地下式の構造が今も保存されている。郷土館は酒造・廻船・漁業関係の資料が展示されている。

15 高瀬舟船着場跡



高瀬舟は18世紀には坂越村に着岸していたことが知られており、以後内陸部との流通の重要な役割を果たした。内陸部の薪などの物資を坂越で陸揚げ、大八車などで鳥井坂を越して坂越港へ運び大阪方面への廻船に積み込んだという。



4 御番所跡・坂越浦城跡



坂越浦城は宝珠山山麓の標高20mの上ノ山と呼ばれる小丘にあり、『播磨鏡』では城主は赤松村秀という。江戸時代にはこの場所に赤穂藩の御番所が置かれ、坂越浦に出入する船の監視に当たった。

10 坂越まち並み館



まち並み館は、大正末期に建築された旧奥藤銀行坂越支店の建屋を坂越の町並み景観創造の活動拠点として、また坂越の来訪者が気軽に利用できる中核拠点施設として活用するために平成6(1994)年、修景整備した「館」である。裏には学西が享禄5(1532)年開基した光明山妙道寺(浄土真宗本願寺派)がある。

16 しうん こうれん 紫雲山光蓮寺



浄土真宗本願寺派の寺院。本尊は阿弥陀如来。創建は大永3(1523)年、開祖は僧宗玄、寛文元(1661)年に寺号紫雲山となっている。

歴史と自然と美しい町並み 赤穂市坂越地区

坂越は赤穂市南東部、坂越湾に面する港町です。坂越浦に浮かぶ原生林の島「生島」、緑豊かな山々、清らかな「千種川」など美しい自然に囲まれています。また伝統的建物群による風情ある町並みが今なお残る魅力ある町です。

赤穂市役所 区画整理課
〒678-0292 兵庫県赤穂市加里屋81番地
TEL 0791-43-6829
FAX 0791-43-6892